

令和4年度第1回高知県子どもの環境づくり推進委員会 会議の概要

1 日程及び議題

日時：令和4年6月5日（日） 14:00～15:30

場所：高知県庁本庁舎2階 第二応接室

議題：（1）子どもの環境づくり推進計画に基づく県の取組について

（2）子ども条例フォーラムについて

- ・昨年度の実施報告について
- ・今年度の開催内容について

（3）第九期子ども委員の募集について

（4）その他

- ・次期計画策定スケジュールについて

2 会議の概要（委員からの主な意見）

事務局説明：（1）子どもの環境づくり推進計画に基づく県の取組について
資 料：【資料1】～【資料2】

- 事務局から「高知県子ども条例」及び「子どもの環境づくり推進計画」の概要を説明

事務局説明：（2）子ども条例フォーラムについて
資 料：【資料3】～【資料4】

- 事務局から「子ども条例フォーラム」の昨年度の実施報告について説明

<昨年度の実施報告について>

○一緒に参加した友達は、始まる前に「堅苦しく、打ち解けられないイメージ」と話していたが、フォーラムが終わると、「他校の人と交流するのが楽しかった。もっと早くから参加したらよかった。自分の意見が採用されたときは嬉しかった。」等の意見が出て、子ども委員として嬉しかった。参加する前の堅苦しいイメージは課題であると思う。（委員）

○ちゃがまんさんのような明るい方が講師で来てくれると、ディスカッションする前から雰囲気が明るくなって、取り組みやすい。（委員）

○数年前に参加した際に、アイスブレイクの時間を提案したが、そのような時間を設けなくても、講師の雰囲気づくりによって、話しやすい雰囲気になると今の意見を聞いて思った。（委員）

○コロナ前は、子ども食堂のメニューを皆で食べたこともあった。

生徒同士の交流の機会が減り、お弁当を食べる時間は大事だったと今になって思う。産業教育をしている学校等が展示をしていたときには、自分の学校以外のことを知れる機会があった。コロナ禍でできることは限られるが、ディスカッションだけでなく、そういう機会があったこともよかったと思う。(委員)

○子どもの視点は大人の視点とは違うので、高校生に講師を選んでもらうのもいいかもしれない。

(委員)

○ファシリテーターの存在が有難かった。場をスムーズに進行してもらえた。ただ、テーマによって難しい内容であったので、班によっては時間が足りていないようだった。(委員)

●事務局から「子ども条例フォーラム」の今年度の開催内容について説明

○18歳未満とは高校3年生は含まれないのか。(委員)

→条例上は、18歳未満となっている。

フォーラムでは、ディスカッションにおいて3年生から多様な意見が聞けると思われるので、できれば3年生までを対象という形にしたいと考えている。(事務局)

<開催時期について>

⇒11月23日とし、各学校の行事予定を確認する。

<会場について>

○以前、オープンな場でやったことがある。県民の方に通りすがりでも見てもらえるという点ではよかったと思うが、じっくり話ができるということでクローズされた場になった。(委員)

○県民文化ホールやかるぽーとのように知っている場所のほうが、知らない場所よりも行ってみようとなる。(委員)

<内容について>

⇒大まかな内容は例年どおりとする。

<参加人数について>

⇒会場の収容人数にもよるが、例年どおり40人とする。

<ディスカッションテーマについて>

「将来の夢・未来の私」

⇒例年どおりテーマに入れる。

「地域共生社会」

→昨年度、「コロナ禍で大切にしたいこと」というテーマでディスカッションをしていただいた。コロナ禍での生活には、地域の方だけでなく、子どもたちも活動が制限され、孤立や孤独を抱えていると思う。地域という範囲でも、子どもたちの身近な範囲に限定したものでも良いが、社会が変わった中で、孤立化している人をどう支えるかについて、子どもたちの視点から議論ができればと思う。

(事務局)

○テーマとしては良いが、絞らないと話しにくいのではと思う。例えば、学校も一つの社会だが、学校の中での共生社会を考えるほうがイメージしやすいのではないか。(委員)

○身近なテーマの方が話しやすい。(委員)

○地域共生社会という言葉については、説明を丁寧にしてあげる必要があると思う。(委員)

○子どもたちにとって地域の課題や気になっていることがあれば、話しやすいと思うがどうか。(委員)

○地域共生社会と聞いて思うテーマは、まず防災関係が浮かぶ。どうやってお互いを助け合うのか。そのために自分たちができることと、地域と一緒にできること。そういったテーマはどうかと思った。(委員)

○子ども未来フォーラムという名前がついているので、自分たちの未来と共生社会を組み合わせたいようなテーマはどうだろうか。(委員)

⇒「地域共生社会」をテーマの一つにすることには賛成。

(共生の意味を補正する。話しやすいテーマに整える。)

これまでの意見をふまえて事務局で協議。

事務局説明：(3) 第9期子ども委員募集について
資 料：【資料5】

●事務局から第9期子ども委員の募集について説明

<チラシに掲載する内容について（子ども委員の声）>

『子ども委員』

・【やろうと思ったきっかけ】

学校で一人一人にチラシが配布され、友達とやりたいという話になり、応募した。

・【やってみてどうだったか】

メールの仕方や、人前で堂々と発表ができるようになったことなど、大学生活で役に立つことがある。

『子ども委員』

・【やろうと思ったきっかけ】

身になることがあるかもという軽い気持ちだった。

・【やってみてどうだったか】

大人と対等に会話できるのが一番の強みと思う。立場に関係なく話を聞いてくれるので、安心して意見が言える。

『子ども委員』

・【やろうと思ったきっかけ】

大学受験に役に立つかもという気持ちで応募した。

・【やってみてどうだったか】

県のやっている事業について知ることができて、勉強になった。

『子ども委員』

・【やろうと思ったきっかけ】

チラシが学校で配布されたことで活動を知り、その頃、コロナが流行った時期で様々な活動がなく、何かしたいと思って応募した。また、小学校から高校まで、学校の雰囲気あまり好きではなく、誰かに聞いてもらいたいという気持ちがあり、ここなら聞いてくれるかと思い応募した。

・【やってみてどうだったか】

堅苦しいイメージだと思っていたが、話しやすい雰囲気だった。大学受験にも役に立った。

『子ども委員』

・【やろうと思ったきっかけ】

校長先生からのすすめ。受かったときにはやってみようという気持ちになった。

・【やってみてどうだったか】

大人の委員さんが対等に扱ってくれた。色んな高校の学生がいるので、意見を聞くのが楽しかった。高校に帰ったときには、クラスの中で堂々と話せるようになったし、生徒会長として人前で話すときは楽しく感じた。

<子ども委員のすること>

○以前、新旧子ども委員による座談会を実施し、その様子がフォーラムの実施報告書に掲載されて配布されたことがある。(委員)

○座談会のような場は、バトンをつなぐという意味でもよいと思う。(委員)

○学校の新聞部に協力してもらい、記事にしてもらったこともある。(委員)

○子ども委員には興味がなくとも、フォーラムには興味のある学生に届けるために、フォーラムのチラシに子ども委員が運営に関わっているということを記載するのはどうだろうか。(委員)

○子ども委員さんの意見をホームページに掲載して、活動を紹介していくのもいいと思う。(委員)

<募集期間>

○募集期間を延ばすのはどうか。やりたくても準備をする時間がない学生もいると思うので、夏休みにかかるほうが、募集人数も増えるのではないだろうか。(委員)

⇒・募集期間を伸ばし、約一ヶ月とする。

・チラシは県内すべての高等学校に生徒数分を配布。

・フォーラムのチラシに子ども委員が運営に関わっていることを記載。

(・座談会のような場を設ける)